

高の原の各種団体活動 高の原文化協会

【高の原文化協会の歴史と今後】

【誕生の経緯】

この度50周年という事で文化協会も「高の原文化協会」へと名称変更をしました。

ここでは旧名称で過去を振り返り説明させていただきます。(松岡さん回想録より)

それは昭和56年2月の事です。右京地区自治会の班長会での話です。

新しく出発する事になるニュータウンの班長会で「新年度の役員選出」と言う会合があり、自治会長の永田喜一郎さん(この方は住宅公団奈良営業所初代所長でした)がおられ、話し合いで各種行事分担を決めて4月より自治会の活動が開始しました。

自治会の役員会があった時、永田さんは、時々「この地区に文化活動する会がないのはおかしい。何とかして文化協会が欲しい」と言うような事をおっしゃっておられました。或る日永田さんより「この地区に文化協会と言うものを作ろう」と提案され、現実的な話になりました。

しかし、永田さんは自治会の会長職にあるので「協会の会長は別の方でお願いしたい」と、協会の会長を引き受ける事はしないとされました。

文化協会の会長は元高校教師の松岡さんが適任ではないかと言うことになりました。

しかし松岡さんからは「そんな柄ではない」と言われ決まりませんでした。そうして、幾日か過ぎた或る日、連合会長をしておられた梶野さんが、当地区には、全国から文化風俗習慣の異なる方々が転居されているから、お互いの親睦を深めていかねばならないというお考えのもと、スポーツ協会を創設され、各種目のクラブを発足されました。合計で1500人程の方々が参加されました。

更に万年青年クラブや社会福祉協議会、教育懇談会なども設立されましたが、何よりも文化協会の設立が求められていました。

しかしその取りまとめを行う会長職が見つかりませんでした。

これから出発すると言う「文化協会」の会長に適し

た人材がいらないかニュータウン地区で聞き込みをしていました。ある会合で宇陀中学校(現宇陀高校)の教鞭を執っていたI先生にお会いし、私が困惑している文化協会の会長職の話をしました。

丁度その頃、高松塚古墳発見の話題が新聞を賑わせていて、その発見者である網干さんが平城ニュータウンへ転居されており、また、I先生の畝傍中学での教え子でもあるとの事でした。

彼は大学卒業後、考古学、歴史学に貢献し、日本考古学会の会長になった、と聞くから「きっといい仕事をしてくれるに違いないよ」と、おっしゃられて名刺で紹介の言葉を書いてくれました。そしてこの話を自治会会長の永田さんに話したら、永田さんは、「それはいい話だ」と言う事になり、右京の地区自治会役員全員と神功地区の役員をしておられた大橋さんや梶野さんと一緒に、網干善教さんと言う関西大学の教授のお宅に参上して、文化協会の会長職をお願いすることになりました。

網干先生のお宅にお邪魔して、「文化協会」設立の趣旨を説明し、その会長になって頂きたい旨を懇願しました。ジッと聞いておられた先生は、しばらくして、快諾して下さいました。とても嬉しくて、帰路、皆と幾度も幾度も喜びを語り合った事を思い出します。



このようにして、「平城ニュータウン文化協会」と言う大きな船が、錨を上げて大海原に輝かしく船出をしましたのが昭和58年2月28日の事です。

スタート役員は、当地区の5名の知識人をお願いし、多くの講座・同好会が提案され、代表者や世話役さんを決めて試行錯誤で運営されました。

また、会誌は平城ニュータウン地域が日本書紀にある「層富県」であることから1年後の8月に「層富(そほ・そふ)」と言う名称で発刊され、網干会長さんの発案で「層富」の字は、書家の川口勇さんの揮毫、会章の図案は、寛裕さんのデザインを梶野哲さんが図案化されました。



会誌「層富」



会章

【文化協会の今後】

平城ニュータウン文化協会は文化的な活動をサポートするボランティア団体であり、発案者数人から同好会スタートができます。

発足当初に20講座・同好会ほどでしたが、平成3年には歴史教養講座「古代豪族」、古代史講座、囲碁同好会、木目込人形・押絵同好会、読書会、中国語講座、詩吟の会、地酒を味わう会、園芸の会、拓本を楽しむ会、絵画の会、ワープロ教室、俳句入門(平城山句会)、短歌を楽しむ会、フランス語講座、山歩きの会、英語講座、万葉講座、野山を歩く会、笛作りの会、野草をしらべる会、源氏物語研究、星を見る会、写真同好会、アマチュア無線の会、公園を考える会、大和路ビデオ鑑賞会、音楽を楽しむ会、フォークギター講習会、「子どもの生活」研究会など30講座・同好会と発展し会員数は3百人ほどになりました。

文化協会は個別の講師・リーダーがそれぞれの会を運営し、毎年秋に市民文化ホールを貸し切り、展示会や舞台上演会を3日間にわたり、日頃の活動の成果を

披露して、地域の方々と交流しています。

また会誌を毎年発行してPR活動に努めています。文化協会は順調に推移し、網干会長は24年ほど勤められ、上田会長が1年、松村会長が7年、日比野会長が6年、明政会長2年と継続して現在に至りました。

現在は20講座・同好会として、飛鳥学講座、短歌を楽しむ会、源氏物語を読む会、中国語同好会、俳句を楽しむ会、英語講座、硬筆習字万葉書き方教室、朗読を楽しむ会、絵画・絵手紙の会、歌声サロン、折り紙を楽しむ会、押し花とブリザーブドフラワーを楽しむ会、パッチワーク研究会、料理を楽しむ会、わくわくニット、ITを楽しむ会、電子工作同好会、ウクレレを楽しむ会、太極拳と歩き方、ゆっくり歩こう会を運営・開催しています。

文化協会は、文化活動の推進や交流の場の提供に力を入れ、地域の方々と協力し、地域の魅力や活気を一層高める存在となることが目標です。文化活動は、高齢者の健康に多大な効果があります。音楽、読書、絵画、手芸などの文化活動によって、脳トレやストレス解消になり、認知機能や記憶力を向上させることができます。また、文化活動に参加することで、同じ趣味を持つ人たちと交流することができ、孤独感を軽減し、社会的なつながりを保つことができます。さらに、自己実現する機会を得ることができ、自己評価が高まり、精神的な充実感を得ることもできます。

文化協会に参加することで、健康に良い文化活動を楽しむことができます。家族や友人、知人と一緒に参加することもできます。私たちは、会員の皆様の健康と地域文化の発展に力を注いでおり、今後も取り組んでまいります。皆様のご協力をお願いします。

